高次脳機能障害とは？

交通事故や転倒により頭を強く打ったり、脳梗塞や脳出血などの脳血管障がいなど様々な原因により、脳の一部に損傷を受けた場合に起こる障害をいいます。症状も様々で、一人ひとり異なるため、なかなか理解も進まず、対応が難しいのが現状です。

見た目には障害がないように見える場合も多く、周りの人が症状のことを理解せずに過度の期待をかけたり、接し方を間違えたりして問題が大きくなることもあります。

当事者本人は、病識がなくあまり「困っている」とは感じないこともあり、家族や周囲にいる人が「日常的に起こる様々な不都合や問題は、実は高次脳機能障害という障害のせい？」という疑いを持って医療機関や福祉機関に相談しない限り、「なまけもの」や「周りに迷惑ばかりかける人」という誤解を受けたまま見過ごされてしまうことになります。

主な原因

- **脳血管疾患**
  （脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血など）
- **脳が傷つけられたり、圧迫されたりすること**
  （交通事故、転落事故、スポーツ、暴力など）
- **脳が炎症を起こしたり、酸素不足になること**
  （ウイルス性脳炎、低酸素脳症、水におぼれるなど）
- **中毒**
  （アルコール中毒、薬物中毒、一酸化炭素中毒など）
- **脳腫瘍**
- **その他の身体疾患**
  （多発性硬化症、膠原病、内分泌疾患など）

高次脳機能障害の症状

1 易疲労性（神経疲労・精神疲労）

- 何事にも耐久力がない
- いつもあくびばかりしている
- 視点があわない
- 反応が鈍い
- 座っていられない
- 疲れやすい

2 イライラ（脱抑制）

- 言葉遣いが荒い
- 急に怒り出し物を投げつける
- 場所をわきまえず泣き叫ぶ
- 大声を出す
- 何事も待てない

3 やる気のなさ（発動性の低下）

- いつもボッーとしている
- 何事も自ら始めることが出来ない
- いつもやる気がない
- 会話が続かない

4 注意・集中力低下

- 問いかけても返事をしない
- 注意が散漫である
- ひとつの場所にとどまっていられない
- 食事中でも動作が中断される
- 課題を続けることが出来ない

5 言語の遅れ（言語障害・失語症）

- 指示が入らない
- 言葉がなかなか出てこない
- 会話が続かない
- 文字は読めないが、絵は理解できる
- 読み書きが出来ない
- 「あー」「うー」などの擬音しか発することが出来ない

6 記憶の問題（記憶障害）

- さっき言われたことを忘れてしまう
- 何度も同じ事を質問する
- 何度も同じ間違いを繰り返す
- 生活がつながらない

7 段取りが悪い（遂行機能障害）

- 段取りが悪い
- 複数のことを同時に行なうことが困難
- 何事にもこだわり前に進まない
- パニックになりやすく修正がきかない

8 本人に認識がない（病識の欠如）

- 自分の問題を理解出来ない
- 訓練や治療を拒否する
- 常に問題は自分以外にあると思っている